

200936095A

厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患克服研究事業

日本におけるリンパ管腫患者（特に重症患者の長期経過）の  
実態調査及び治療指針の作成に関する研究

平成 21 年度 統括研究報告書

研究代表者 藤野 明浩

平成 22 年（2010 年）3 月

厚生労働科学研究費補助金

難治性疾患克服研究事業

日本におけるリンパ管腫患者（特に重症患者の長期経過）の

実態調査及び治療指針の作成に関する研究

平成 21 年度 統括研究報告書

研究代表者 藤野 明浩

平成 22 年（2010 年）3 月

## 目 次

I. 平成 21 年度 研究班構成員名簿	-----	1
II. 総括研究報告書		
日本におけるリンパ管腫患者（特に重症患者の長期経過）の実態調査及び治療指針の作成に関する研究 藤野明浩	-----	2
（資料）		
リンパ管腫概要	-----	6
倫理審査申請書	-----	7
予備調査協力施設及び登録症例数	-----	13
予備調査調査票	-----	14
研究実施ポスター	-----	24
リンパ管腫情報ステーション	-----	25

平成 21 年度 研究班構成員名簿

リンパ管腫研究班

区 分	氏 名	所 属 等	職 名
主任研究者	藤野 明浩	国立成育医療センター第二専門診療部 外科	医 員
研究分担者	森川 康英	慶應義塾大学医学部 小児外科学	教 授
	上野 滋	東海大学医学部 小児外科	教 授
研究協力者	黒田 達夫	国立成育医療センター第二専門診療部 外科	医 長
	北野 良博	国立成育医療センター第二専門診療部 外科	医 長
	森川 信行	国立成育医療センター第二専門診療部 外科	医 員
	田中 秀明	国立成育医療センター第二専門診療部 外科	医 員
	高安 肇	国立成育医療センター第二専門診療部 外科	医 員
	武藤 充	国立成育医療センター第二専門診療部 外科	医 師
	松田 諭	国立成育医療センター第二専門診療部 外科	医 師
	山根 裕介	国立成育医療センター第二専門診療部 外科	医 師
事務局	藤野 明浩	国立成育医療センター第二専門診療部 外科 〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1 TEL 03-3416-0181 (7471) FAX 03-3416-2222 E-mail: fujino-a@ncchd.go.jp	

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患克服研究事業）  
 総括研究報告書

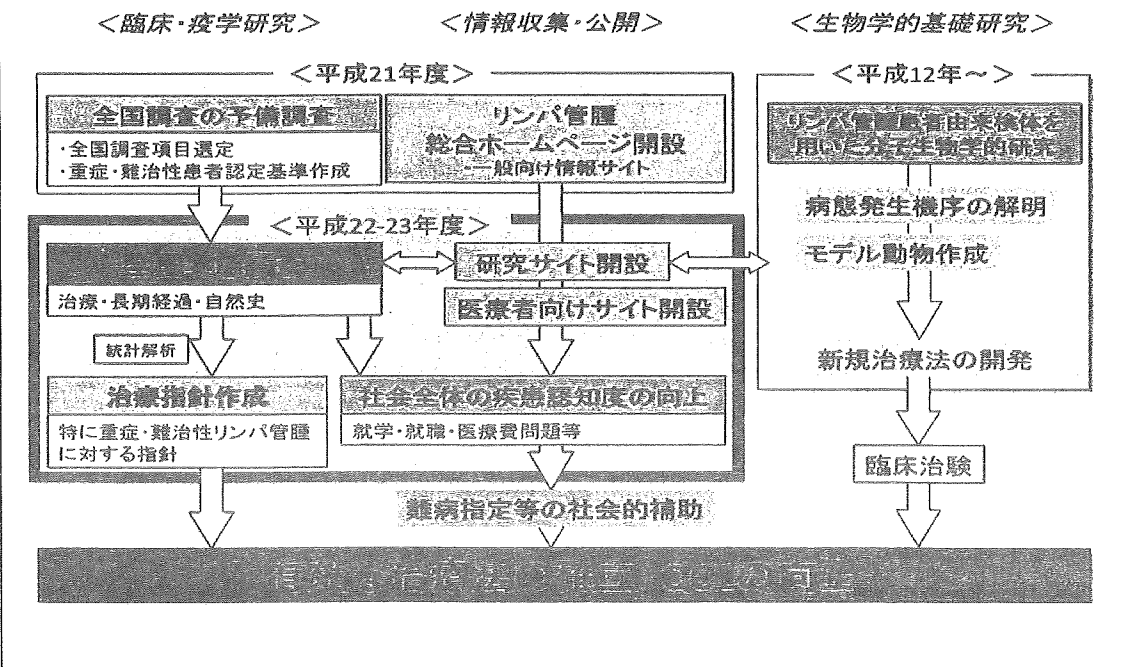
日本におけるリンパ管腫患者（特に重症患者の長期経過）の  
 実態調査及び治療指針の作成に関する研究

研究代表者 藤野 明浩 国立成育医療センター 外科 医員

研究の要旨

「リンパ管腫」は主に小児期に発生するリンパ管を発生母体とした原因不明の腫瘍性疾患である。当疾患は比較的稀であり、十分な認知がされておらず、その発生原因、生物学的な特性の研究はもとより、罹患率、予後などの臨床統計学的な調査に関しても大規模な研究報告は国内外を通じて認められない。当研究は3年間の研究期間中に全国のリンパ管腫患者、特に現在有効な治療法が確立されていない重症・難治性患者の総数やその治療・予後・QOL等の実態を把握することと最適な治療指針を作成することを第一の目的とする。

リンパ管腫研究計画概要



分担研究者

森川 康英 慶應義塾大学医学部小児外科  
教授

上野 滋 東海大学医学部小児外科  
教授

## A. 研究の背景

リンパ管腫は主に小児期に発症する腫瘍性病変で、正常組織内に網目状に広がるリンパ嚢胞からなる。多くは治療にて改善するが、一方で有効な治療法のない重症・難治性症例が存在する。巨大な患部の感染にて命を失ったり、気道周辺病変による気道閉塞のため気管切開を要する例が後を絶たない。特異な容貌や呼吸・嚥下等の機能的ハンディを背負い成長し生きて行かなくてはならず、ある意味では悪性疾患より辛い生活となる。就学等の社会適応も困難な現状であるがこのような重症・難治性リンパ管腫患者の社会の認知は皆無である。

## B. 研究目的

1. 重症・難治性リンパ管腫患者の把握、治療指針作成
2. リンパ管腫全般の調査
3. リンパ管腫総合ホームページの開設

当研究の目的は、全国のリンパ管腫患者、特に現在有効な治療法が確立されていない重症・難治性患者の総数やその治療・予後・QOL等の実態把握と最適な治療指針の作成であり、全国の小児外科施設におけるリンパ管腫患者の実態調査を行う。またリンパ管腫に関する詳しい情報を広く提供し、研究の中心となる Web サイトを設立し、発

展させることである。

当疾患は比較的稀であり、その発生原因、生物学的な特性の研究はもとより、罹患率、予後などの臨床統計学的な調査なども大規模な研究報告は国内外を通じて認められない。当研究の全国調査の結果、患者 QOL の実態は明らかとなり、社会的な対応策の必要性の程度が認知される。一方主任研究者らのグループにより「リンパ管腫に対する生物学的特性に基づいた新たな治療法の開発及び臨床応用」を目標として「病態発生機序の解明」「モデル動物の作成」のテーマでリンパ管腫の細胞生物学的な研究が進められている。将来的には当疫学調査研究結果と統合され、リンパ管腫に対する治療の改善・患者 QOL の改善に大きく貢献することが期待される。

## C. 研究方法

対象は過去 20 年間に日本全国の小児外科施設（認定施設約 130）を受診した「リンパ管腫」患者。リンパ管腫の罹患率は明らかでなく対象者数の把握も研究の目的の一つである。特に重症・難治性症例は出生直後に小児外科にて管理・治療されることが一般的であるため当調査にて網羅的に総数を把握することが可能と考えられるが、最終的には形成外科、耳鼻咽喉科等にも調査を依頼しさらに精度を上げる。

全国調査に先駆けて予備調査を行い、問題点を絞り、効率よく全国調査を行うための資料を集める。

調査は全国の小児外科各施設へ依頼し、各施設にて診療録調査を行い連結可能匿名化の上 Web 登録システムを用

いて登録する。調査項目は疾患発生部位、行われた治療、結果などの一般的項目から、特に重症・難治性と定める頸部・腋窩・縦隔リンパ管腫については、気管切開の有無・胃瘻造設の有無・食事可否・就学状況等の詳細な調査を行う。

研究施設である国立成育医療センターにて「治療」「経過」「自然史」等につきあらゆる解析を加える。特に「重症・難治性症例に対する治療指針」を作成することに重点を置く。結果は学会議・学術雑誌等にて報告する。

また情報のハブとなるリンパ管腫の総合ホームページを開設し、Web 登録等、情報収集及び一般・医療者向けの情報公開の場とする。

#### D. 平成 21 年度進捗状況

目的達成のため先に予備調査を行い、追究すべき問題を絞った後に Web 登録による全国調査を行うことで、効率的に精度の高い結果を得る計画であった。

平成 21 年度は全国の 13 の小児外科施設に協力を要請し、リンパ管腫と診断された過去 20 年間の受診患者について診療録に基づいて調査を行い連結可能匿名化して収集した。平成 22 年 2 月末までに合計 620 症例が登録され、現在解析を進めている。

全国調査に際して「重症・難治性リンパ管腫の定義」が必要である。予備調査にて記入した担当医にそれぞれの症例が重症・難治性といえるかどうか、またその根拠の記入を求めた。結果として 620 例中 124 例が難治性と判断された。この結果に基づき研究班にて診断基準案を設定し、全国調査の登録基

準とする。

全国の全症例の網羅的把握は不可能であるが、全国調査においては登録症例数を稼いで得られるデータより、現行で主に行われている硬化療法の有効性の疾患発生部位別検討などを行う。その項目選定に必要な予備調査を行ったリンパ管腫に関する情報を収集し、公開する「リンパ管腫情報ステーション」を開設した。

(<http://www.lymphangioma.net>)

「一般・患者向け」「医療者向け」「研究」の 3 つの大きな部門を設定して順次アップデート中である。特にセキュリティと今後の医療情報連携、研究の発展、国際的な利用を視野に入れて大規模なサイトを構築する。

患者を含め一般の方に、疾患を正しく理解してもらうための「一般向け」ページを平成 22 年 3 月より公開している。将来的には当全国調査結果を提示するなど「研究」部門とも連携され、現在存在しない患者コミュニケーションサイトとしても利用できるような信頼性の高いサイトを目指している。

全国調査は「研究」用サイトを通してなされるが、現在全国調査用の入力システムを構築中である。

#### E. 今後の予定

平成 21 年度に行った「リンパ管腫患者の全国実態調査のための予備調査」の結果、「重症・難治性リンパ管腫の定義・診断基準案」を設定し、またリンパ管腫全般に関して未解決問題で調査すべき項目が選定される。それらに基づいて Web 登録システムを完成し、平成 22 年度より全国調査を開始する。

平成22年度は日本小児外科学会に所属する施設を対象に、協力を要請し全国調査を行う。6月の学会総会において平成21年度の予備調査結果を公表し、問題点を提起し協力を呼びかける。

重症・難治性症例に関しての調査は平成22年内に大半の施設からの登録を受け、年度内に登録終了する。重症・難治性に限らずリンパ管腫症例全般に関する調査も同時に登録開始するが23年度前半まで可能な限り多くの症例を登録する。

平成23年度には全国調査の結果、詳細に検討すべき項目が生じた場合には追加調査を行う。6月の学会総会において経過を報告。「重症・難治性リンパ管腫に対する治療指針」の作成を開始し、12月までに指針を完成し報告可能な状態とする。リンパ管腫全般に関する調査も前半に終了し、後半には統計的処理をおこない総括する。

研究期間内には「リンパ管腫情報ステーション」を随時拡充する。今後、すでに開設した「一般・患者用」サイトを通してサイト訪問患者へのアンケート調査を行い、平成23年度後半に集計を目標とする。主な目的は診療録からは得られない観察結果や、生活における問題点、医療に対する要望などを把握することである。「医療者用」サイトは平成22年6月に開設し、最新知見の案内を行う。「研究」サイトは全国調査を行うと同時に新たに発生した問題に対する調査研究、国際的な調査研究などの際に登録サイトとして活用していく。

そのため、本研究期間終了後もサイトは継続していく予定である。



## リンパ管腫 概要

### 1. 概要

リンパ管腫は主に小児（多くは先天性）に発生する大小のリンパ嚢胞を主体とした腫瘍性病変であり、生物学的には良性とされる。全身どこにでも発生しうるが、特に頭頸部や縦隔、腋窩に好発する。多くの症例では硬化療法や外科的切除等による治療が可能であるが、重症例はしばしば治療困難であり、気道閉塞などの機能的な問題や美容的な問題を抱えている。血管病変を同時に有することもある。英語名は lymphangioma。

### 2. 疫学

推定 10,000 人

### 3. 原因

多くは先天性で、胎生期のリンパ管の発生異常により生じた病変と考えられているが、その発生機序は明らかでない。原因は不明である。

### 4. 症状

多くは頭頸部、体幹、四肢の体表から認められる腫瘍を形成する。胸腔・腹腔内にあって外観上分かりにくい場合もある。通常は腫瘍があることで外観の問題を呈するにとどまるが、経過中に内部に感染や出血を起こすことがあり、発熱や疼痛、部位によっては気道圧排症状や急性腹症を呈し、気道確保、呼吸管理などを要する重症管理が必要となることもある。

### 5. 合併症

局所の急性感染、リンパ管腫内出血、気道閉塞、嚥下障害、発声障害、誤嚥性肺炎、腹痛、嘔吐、下痢等

### 6. 治療法

外科的切除、硬化療法（ピシバニール、ブレオマイシン、高濃度アルコール、高濃度糖水、フィブリン糊等）、抗癌剤、インターフェロン療法、ステロイド療法、レーザー焼灼法など。

# 研究計画書

## リンパ管腫患者の全国実態調査 のための予備調査

平成21年9月2日提出

## 研究課題名

リンパ管腫患者の全国実態調査のための予備調査

### 1. 研究責任者

藤野明浩 (国立成育医療センター第二専門診療部外科 医師)

### 2. 研究組織

【組織構築・倫理委員会準備・データ収集システム構築・研究統括】  
研究責任者 藤野明浩

【研究参加施設依頼・データ収集・検討】  
分担研究者 森川康英 (慶應義塾大学医学部教授)  
分担研究者 上野 滋 (東海大学医学部教授)

【データ収集システム構築・統計的解析】  
共同研究者 矢作尚久 (国立成育医療センター臨床研究センター)

#### 【対象患者の調査】

研究施設：国立成育医療センター、慶應義塾大学病院、東海大学医学部附属病院

研究協力施設：総合太田病院、北里大学病院、杏林大学医学部附属病院、都立清瀬小児病院、埼玉県立小児医療センター、さいたま市立病院、聖マリア病院、聖路加国際病院、東京大学医学部附属病院、NHO 栃木病院、獨協医科大学越谷病院、長崎大学病院、NHO 舞鶴医療センター (計 13 施設、50 音順)

### 3. 研究目的：

日本における「リンパ管腫」の罹患率や病態・治療・経過全般に関する情報と特に現在有効な治療法のない重症リンパ管腫につき、その治療・予後・QOLの現状を把握することと、部位や病態特異性の有無などを調査し統計学的解析結果から治療指針を作成することを目的とするリンパ管腫の全国実態調査を行うにあたり、その調査項目の検討するために限られた施設にて予備調査を行い十分なデータを得ることが目的である。

当疾患は比較的稀であり、生命予後は基本的に良いために一般に十分な認知がされておらず、その発生原因、生物学的な特性の研究はもとより、罹患率、予後などの疫学統計学的な調査に関しても大規模な研究報告は国内外を通じて認められない。

当研究にて大規模な疫学的調査を行うことで、患者 QOL の実態は明らかと

なり、特に重症・難治性患者に対する社会的な対応策の必要性が認知される。将来的な新治療法の臨床試験の妥当性、また経済的効果や患者の精神的・社会的効果をより明確に打ち出すことが出来ると考えられる。

4. 研究対象：

研究協力を依頼している 16 の小児外科施設を 1989 年から 2008 年の 20 年の間に受診したリンパ管腫患者の診療録

5. 被験者数の設定：

当該調査は日本全国の小児外科施設を通じての実態調査を行うための予備調査であるが、対象者数の把握も研究の目的の一つであり、現段階で被験者数の設定は出来ない。予備調査にて全国調査へ向けて大方の目安が立つと予想される。

6. 研究期間：

倫理委員会承認から 平成 22 年 3 月 31 日迄

7. 研究方法：

本研究は診療録を用いる観察研究である。研究代表者らがアンケート調査票を作成し、個々の患者の病態、診断、治療、QOL を含めた長期経過等の項目についてデータを収集する。後に行う全国調査では対象者は全国の小児外科施設受診歴があり「リンパ管腫」と診断された患者とし、全ての施設に研究協力を依頼する。特に重症患者は出生時に診断され小児外科受診を経ていると考えられ、全ての小児外科施設の協力が得られれば重症患者についてはほぼ網羅的に情報を収集出来ると考えられる。

ただし、調査項目の妥当性・簡略化可能性等を検討するため、今回先に 15 の施設に予備調査を依頼する。得られた情報は各協力施設において連結可能匿名化されたうえで国立成育医療センターで収集され、統合し解析される。その結果を基に、新たな全国調査用 Web 登録ページを開設（業務委託：外部企業）し、全国調査を実施する。また、今回の予備調査にて得られたデータは後の全国調査にも使用する。

予備調査の解析結果は、全国調査とは別に和文及び英文にて学術雑誌に公表する。

全国調査時の調査項目変更に伴い後に追加調査が必要となる可能性があるため、また一部の症例（重症・難治症例）については後に追加調査を行う可能性があるため本予備調査は連結可能匿名化して行う。

8. 予測される成果・研究の意義：

全国調査では全国的な患者数や病態、治療経過、特に重症の患者数と治療・QOLの実態が把握が目的となるが、今回の予備調査にて調査上起こりうる問題点や注目すべき点など、全国調査の際に留意すべき点が明らかになり効率的になると期待される。

リンパ管腫に関する疫学調査としては、九州地方の限られた施設での集計結果が公表されているが（参考文献）、症例数が限られていることと、重症・難治性患者へ焦点を当てたものではない。全国調査後の解析にて多数の患者の病態と治療効果との相関に統計的解析を加えた結果治療指針が作成される。将来的には正確なデータをもとに社会に訴えることで疾患が認知されることにより、難治性患者に対する社会の受け入れ、行政による支援・保障等を通しての患者QOLの向上等も期待される。

## 9. 研究参加のメリット・デメリット

### 【メリット】

研究の対象となる患者本人への直接のメリットは無い。しかしながら、現在この疾患に関する疫学的データは乏しく、当研究の結果は間接的に対象者にとっても有用となること、また当該研究結果をもとにリンパ管腫の難治性への認識が高まり、医療費負担への補助などの点で将来的に本人に還元される等の可能性がある。

### 【デメリット】

調査の対象となる情報は全て診療録から得られ、患者本人への直接介入はなく、本人から直接情報を取るなどの手段も用いない。患者本人の個人情報 は完全に保護されており、患者本人へのデメリットはない。

## 10. 研究参加の自由と撤回権：

### 【本研究におけるインフォームド・コンセントについて】

本研究は既存資料のみを用いる観察研究であり、研究対象者に危険・不利益が及ぶ可能性は皆無であると考えられる。

研究者等及び研究協力施設は、研究対象者に対して各施設の外来にてポスターと同様の内容の説明文を配布し、出来る限り同意を確認しカルテに記載をする。しかし、現在通院していない研究対象者等同意の取得が困難な場合には、疫学研究に関する倫理指針第3の1(2)②イ「既存試料等のみを用いる観察研究の場合」に基づき、又、資料提供施設については疫学研究に関する倫理指針第4の3(2)①「当該資料が匿名化されていること（連結不可能匿名化又は連結可能匿名化であって対応表を提供しない場合）」に基づき、「研究対象者からインフォームド・コンセントを受けることを必ずしも要しない。

この場合において、研究者等は、当該研究の目的を含む研究の実施につい

ての情報を公開しなければならない」とされており、研究の意義、目的、方法、研究機関名及び問い合わせ・苦情等の窓口についての情報を研究代表施設である成育医療センターのホームページ及び各医療機関にポスター掲示にて公開する。

公開した情報に対する質問等には研究代表者が対応する。

#### 【研究参加の撤回又は拒否】

研究対象者が研究の実施を認知し、研究への撤回又は拒否を希望した場合には、研究結果公表前であれば、調査票を消去し、集計結果から除くことが出来る。その場合には撤回希望者は各施設の主治医にその旨を連絡する。研究協力施設は各施設にある対応表をもとに消去するデータを確認の上、研究代表者に連絡し、研究代表者は当該データを消去する。

#### 【問い合わせ先】

研究代表者：藤野明浩  
〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1  
国立成育医療センター第二専門診療部外科  
TEL 03-5494-7144 (直通)  
FAX 03-3416-2222  
e-mail fujino-a@ncchd.go.jp

#### 11. 費用負担：

厚生労働省科学研究費

#### 12. 個人情報の保護・研究成果の取扱い：

当該予備調査は「連結可能匿名化」して行う。調査票とカルテ番号対応表は各研究協力施設にて保管する。調査対象となった個々の症例の報告は行なわず、集計結果のみ個人情報を消去した上で国内外の学術集会・学術雑誌等で公表するためプライバシーは保護される。

#### 13. 研究終了後の試料の取扱い：

当該予備調査にて得られた試料・結果は後の全国調査にも利用する。記入された調査票等の試料は全国調査結果公表後 5 年間研究代表者が保存する。その後再検討の余地がなければ裁断廃棄する。

#### 14. 研究計画の倫理審査について

共同研究施設においては、研究計画に対して倫理委員会の承認を要する。研究協力施設においては、疫学研究に関する倫理指針第 4 の 3 (2) ①「当

該資料が匿名化されていること（連結不可能匿名化又は連結可能匿名化であって対応表を提供しない場合）」に該当するので、倫理審査の承認は必ずしも要しない。但しその判断は各施設の方針に委ねる。

15. 医療情報の利用：

使用予定のアンケート調査票を添付する。

16. 研究計画終了届「様式6」の提出予定日

平成23年3月31日

17. 参考文献等の添付

- ・ 調査票
- ・ 調査票ID・カルテ番号対応表
- ・ 研究参加承諾書（15施設）
- ・ 論文1編

予備調査協力施設及び登録症例数

	協力施設名	登録症例数
1	長崎大学病院第一外科	64
2	北里大学医学部	73
3	聖路加国際病院	18
4	獨協医科大学越谷	22
5	東京大学医学部附属病院	49
6	聖マリア病院小児外科	85
7	国立成育医療センター	60
8	慶應義塾大学	64
9	東海大学	42
10	総合太田病院	10
11	舞鶴医療センター	80
12	埼玉県立小児医療センター	34
13	さいたま市立病院小児外科	19
	合 計	620



## 調査票

9/24/2009

平成 21 年度 厚生労働省 難治性疾患克服研究事業  
「日本におけるリンパ管腫患者（特に重症患者の長期経過）  
の実態調査及び治療指針の作成」

「リンパ管腫患者の全国実態調査のための予備調査」

## 症例調査票

### 《目 的》

小児の外科領域において比較的良好に見られるリンパ管腫は軽症で治療が可能である（治療により改善、寛解）症例が大半を占めますが、一方治療困難で患者・家族の苦しみが非常に大きい症例が存在することもよく知られています。

本邦においては当疾患に対して全国規模の疫学的調査がなされておらず、特に重症患者の発生頻度、治療経過、予後あるいは生活レベルなどに焦点を当てて大規模に調査されたことがありません。国外の文献にもそういったものは見当たりません。

本研究においては、当疾患について全般的に見直し、分類・治療の適応などの未だ明確でない点を明らかにすることや、重症もしくは難治性を定義し、また本邦におけるその実態調査を行い結果を提示することを目的とします。

今回のアンケート調査は Web サイトを用いた全国調査を行う際の検討項目を決定するための予備調査であり、この調査で明らかになる問題点について実際に調査を行った方々と検討し解決したうえで本調査に移行することを目標とします。

調査票 ID	
記入医師名	

### 《注意事項とお願い》

- ・ 別紙の「調査票 ID・カルテ番号対応表」への記入と貴施設での保管をお願いいたします。
- ・ 調査票は 1 例ごとに全ページをホチキスにてまとめて下さい。
- ・ 記入後には調査票全ページのコピーをとり保管して頂きますようお願いいたします。
- ・ 発症(発見)から最終受診日までの記録を元に記入をお願いいたします。その後の長期経過についても分かる範囲で記入をお願いいたします。
- ・ 主観的な質問もあります（重症かどうか？難治性かどうか？等）。現時点では明確な基準がありません。あくまで主観的にお答えいただいた結果に基づいて今後定義します。
- ・ 治療回数が多く治療歴欄に書ききれない場合には適宜用紙を追加して下さい。
- ・ 些細なことも自由に記入いただくと、新たな問題点の発見につながる可能性があります。各項目について気付いた点なども同時にご記入いただけますと幸いです。
- ・ ご不明な点につきましては末尾に記載してある連絡先にご質問下さい。
- ・ 返信は、まとめて郵送をお願いいたします。

9/24/2009

調査票 ID ( )

(別紙の「調査票 ID・カルテ番号対応表」にご記入の上保管してください。)

症例の概略

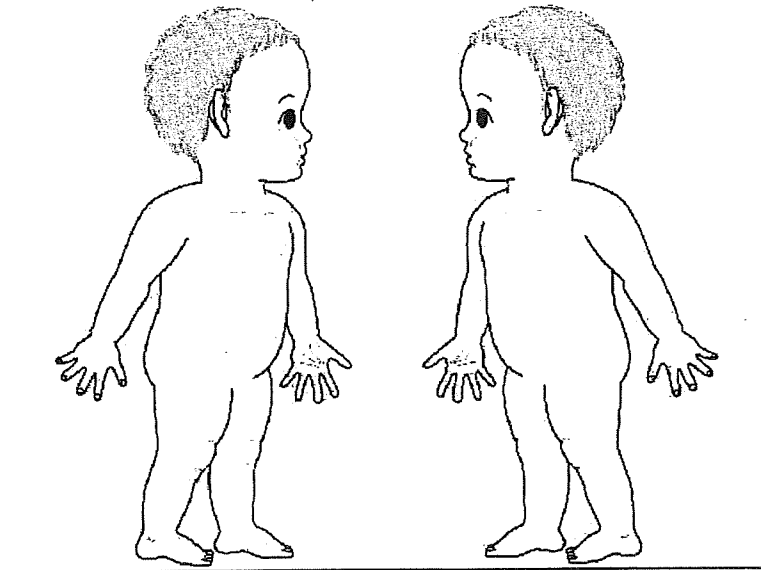
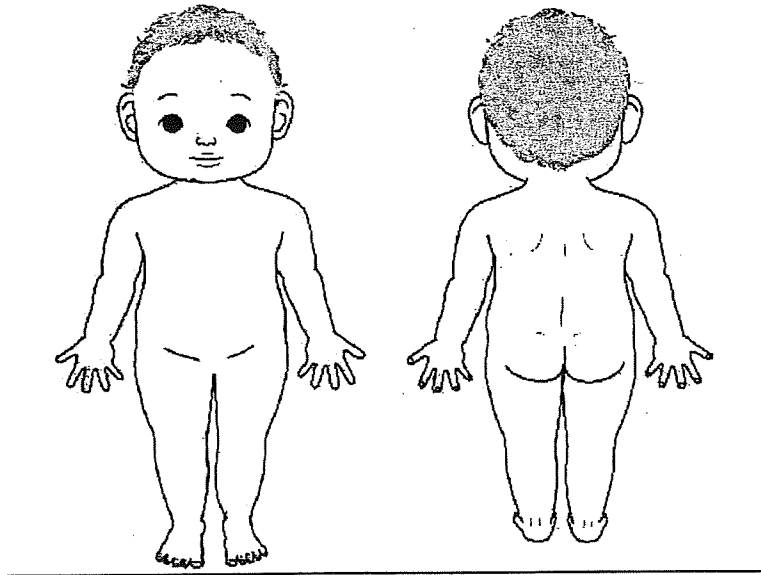
性 別	<input type="checkbox"/> 男 <input type="checkbox"/> 女	
生 年 月	西暦	年 (もしくは 昭和・平成 年) 月
貴院初診日	西暦	年 (もしくは 昭和・平成 年) 月 日
最終受診日	西暦	年 (もしくは 昭和・平成 年) 月 日
貴院初診時前医 ・治療の有無	前 医	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 不明
	有の場合 治療の有無	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 不明
合併疾患	<input type="checkbox"/> 有 ( ) <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 不明	
家族に同疾患患者 (家族：父母同胞まで)	<input type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 不明 有の場合 患者との続柄 ( )	

## 病 態

## ＞ 初診時の状態

発症（発見）時期	<input type="checkbox"/> 胎児期（在胎 週） <input type="checkbox"/> 新生児期（生後 日） <input type="checkbox"/> 乳児期（ ヶ月） <input type="checkbox"/> 幼児期（ 歳） <input type="checkbox"/> 学童期以上（ 歳） <input type="checkbox"/> 不明
発見契機	<input type="checkbox"/> 親など保護者が発見 <input type="checkbox"/> 本人の訴え <input type="checkbox"/> 健診 <input type="checkbox"/> 他の理由で受診時に偶然指摘 <input type="checkbox"/> その他（ ） <input type="checkbox"/> 不明
症 状	<input type="checkbox"/> 腫瘍外観 <input type="checkbox"/> 腫瘍触知 <input type="checkbox"/> 自発痛 <input type="checkbox"/> 圧痛 <input type="checkbox"/> 発赤 <input type="checkbox"/> 違和感 <input type="checkbox"/> 発熱 <input type="checkbox"/> 胸痛 <input type="checkbox"/> 腹痛 <input type="checkbox"/> 嘔吐 <input type="checkbox"/> 下痢 <input type="checkbox"/> その他（ ）
初診時の重症度をどう思うか？	<input type="checkbox"/> 軽 症 <input type="checkbox"/> 中等症 <input type="checkbox"/> 重 症 重症と考える場合その根拠（ ）
病変部位 ※○で囲んで下さい。 複数選択可	<input type="checkbox"/> 頭 頸 部（頭部・眼窩・頬部・下顎角部・顎下部・舌・咽頭部・前頸部・後頸部・その他《 》） <input type="checkbox"/> 胸部体幹（鎖骨上窩・腋窩・皮下＜前胸部・側胸部・背部＞・胸壁内・胸腔内＜上縦隔・下縦隔・肺・心臓＞・その他《 》） <input type="checkbox"/> 腹部体幹（皮下＜鼠径部・陰部・臀部・腹部・側腹部・背部＞・骨盤内・後腹膜・大網・腸間膜・脾・膵・肝・腎・副・膀胱・尿管・子宮・卵管・卵巢・精巣・その他《 》） <input type="checkbox"/> 上 肢（上腕・前腕・手背・手掌・手指・その他《 》） <input type="checkbox"/> 下 肢（大腿・下腿・足背・足底・足指・その他《 》） <input type="checkbox"/> そ の 他（ ）
	<左 右> <input type="checkbox"/> 左のみ <input type="checkbox"/> 左から正中を越える <input type="checkbox"/> 正中部 <input type="checkbox"/> 右から正中を越える <input type="checkbox"/> 右のみ <input type="checkbox"/> 不明

リンパ管腫の部位・範囲を図示してください。



コメント:	
-------	--